

SUMINE HAYASHIBARA VIOLIN RECITAL

林原澄音ヴァイオリンリサイタル

(撮影会場: トーキョーコンサーツ・ラボ)

ライブ配信

2021 **3/19** (金)
19:00 開始

ネット配信

2021 3/27(土) 19:00

▼
3/29(月) 21:00

※期間中いつでも視聴可

《チケット》Peatix

ライブ配信 4,000円

ネット配信 4,500円



[https:// toconlab20210319.peatix.com/](https://toconlab20210319.peatix.com/)

《お問い合わせ》東京コンサーツ TEL.03-3200-9755
(平日11:00~16:00/土日祝休)

林原澄音 / ヴァイオリン SUMINE HAYASHIBARA

吉田千佳子 / ピアノ CHIKAKO YOSHIDA

モーツァルト (1756-91)

ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 K.304

Mozart: Sonata for Violin and Piano in E minor, K. 304

イエネー・フバイ (1858-1937)

チャールダーシュの情景 Op.33. 第5番「バラトン湖の波の上で」

6つの小品 Op.121. 第1番「祈り」

Jenő Hubay:

Scènes de la Csárda Op.33, No.5 'Hullámzó Balaton'

Six Pieces Op.121, No.1 'Preghiera'

林原幾久 (1933-2019)

ヴァイオリンとピアノのための2章 (2001)

Kiku Hayashibara: Two Chapters, for violin and Piano

杉山洋一 (1969-)

A Flower, ヴァイオリンソロのための (1999-初演)

馬 ~チベット民謡による (2017委嘱作品)

Yoichi Sugiyama:

A Flower, for violin solo (1999 - first performance)

The Horse, for solo violin, after a Tibetan folk theme (2017 commission)

ブラームス (1833-97)

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 作品108

Brahms: Sonata for Violin and Piano in D minor, Op.108

[後援] 国立音楽大学附属高等学校同窓会 / 株式会社アジアンドキュメンタリーズ

[協賛] チベット子どもサポート-KIKU

[協力] チベットレストラン&カフェ タシデレ

[マネジメント] 東京コンサーツ



Hair Styling : Shushi Matsunaga

今回のコンサートほど、先がみえなかったことは、いまだかつてなかった。

何度も諦めかけたが、自分の内面に向かうことが出来た。

この場を借りて助けていただいた皆様に心からの御礼を申し上げるとともに、このリサイタルを、愛と感謝を込めて、母に捧げる。

林原澄音



林原澄音 (Sumine Hayashibara / ヴァイオリン)

故久保田良作氏に師事。英国トリニティ音楽大学の演奏科にて、イエネー・フバイの弟子であった、ニコラス・ロス氏に師事。同大学の奨学金を得て、フェローシップ・ディプロマ(最高位演奏家資格)を取得し卒業。在学中、弦楽四重奏の“ジョン・バビローリ”プライズ受賞。バッハのソロ演奏における“ヴェラ・カントロヴィッチ”プライズ入賞。ルジェーロ・リッチ、イヴリー・ギトリス、エリック・フリーデマン各氏からもレッスンを受ける。卒業後は、ミクロシュ・カルテット(ロンドン・セント・マーティン・イン・ザ・フィールド教会の専属カルテット)の第一ヴァイオリン奏者となり、また、ロンドン・ソロイスト・アンサンブルのメンバー、兼ソリストを10年間務める。ミッシェル・エルマンの専属伴奏者であったジョセフ・サイガー氏とのデュオ・リサイタルは、日英ともに、高い評価を得る。帰国後、高橋真氏に師事。カザルス・ホール、サントリー・ホールでのコンチェルト、ロンドン・フェスティバル(小)ホールのパーセル・ルームでのアンサンブル公演(2001ジャパンフェスティバル)、東京オペラシティと東京文化会館の(小)ホールでのソロ・リサイタル他、杉並公会堂大ホール(十小ホール)、両国門天ホール、ニューヨーク・カーネギー(小)ホールなど、多数のコンサートに出演。国内外で、ソロ・リサイタル、コンチェルト、室内楽、現代曲の初演など、幅広く演奏活動を行っている。2017年、杉山洋一作曲「馬〜チベット民謡による」を初演する。



吉田千佳子 (Chikako Yoshida / ピアノ)

東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業後、同大学院修了。その後フランスに渡り、パリ・エコール・ノルマル音楽院の高等演奏課程のディプロムを取得(ピアノ、室内楽)第7回イル・ド・フランス国際コンクール第3位入賞。パリ市内の教会や国際芸術都市にてソロリサイタル、室内楽コンサートを行う。帰国後は日本女子大学、長野県小諸高等学校にて後進の指導にあたる。



林原幾久 [1933-2019] (Kiku Hayashibara / 作曲)

東京生まれ。国立音学大学の作曲科卒業。作曲を、高田三郎、島岡譲の各氏に師事。聖歌集作曲コンクール第3位。国立音学大学および、付属高等学校の教諭を約40年間務める。著書に(共著)、総合ソルフェージュ(音楽之友社)がある。



杉山洋一 [1969-] (Yoichi Sugiyama / 作曲)

桐朋学園大学卒業。作曲を三善晃、F.ドナトーニ、S.ゴルリに、指揮をE.ポマリコ、岡部守弘に師事。作曲家として、ミラノ・ムジカ、ヴェネツィア・ビエンナーレをはじめ、国内外より多くの委嘱を受ける。代表作として、大統領令に基づく打楽器奏者のための『壁』、チベット民謡による『馬』、女性と室内楽のための『杜甫二首』、ブリアート族シャーマンの旋律に基づく三味線と弦楽合奏のための『歩み』、十七絃のための『鶺鴒』、五重奏曲『アフリカからの最後のインタビュー』、オーケストラのための『自画像』がある。

また日欧で指揮者としても活躍している。携わった主な劇場作品に、『プロメテオ』『ファルスタッフ』『大鴉』他、多数の作品がある。

作曲家として、「東京現音計画#01〜イタリア特集」で第13回佐治敬三賞、第2回一柳慧コンテンポラリー賞受賞。指揮者として、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞。2010年サンマリノ共和国聖アガタ騎士勲章受勲。ミラノ市立クラウディオ・アバド音楽院教授。